

千代田まちづくり サポート通信

2026 JULY ISSUE No.45

2026
7

JULY



千代田の
まちサポ

第25回 千代田まちづくりサポート 活動成果発表会

〔目次〕

- P1 事業説明
- P2 ～ 15 応募グループ活動発表概要
質疑応答等
- P16 フォトアルバム
- P17 千代田まちづくりサポート大賞
- P18 審査会委員講評

支援しています。 まちづくり活動を

Chiyo da No Machi sa po



まちサポ応援
キャラクター
「ちよすけ」

千代田まちづくりサポート（まちサポ）は、
現在、将来にわたって千代田区を活気ある、住みよい魅力的なまちにしようとする
市民の自主的で主体的なまちづくり活動を応援し助成する事業です。
この提案型まちづくりを支援する仕組みを通じて、多様な立場の人々が地域のまちづくりに参画し、
つながり合いながら「信頼し合える地域社会」を形作っていくことを目指します。

本誌では、令和8年4月19日(日)に開催された
第25回千代田まちづくりサポート活動成果発表会の様子をお届けします。
まちづくり活動にご興味を持っていただけると幸いです。

ウェブサイト
QRコード



なお、今まで発行してきた「サポート通信」については、
財団ウェブサイトでご覧いただくことができますので、是非、ご一読ください。



助成グループ一覧

部門	回数	一般部門	掲載頁
はじめて	—	安井建築設計事務所 音楽サークル	2
はじめて	—	番町LOVER'S	3
はじめて	—	サードキッチンちよだ	4
はじめて	—	ジェンダー eye	5
一般	1	番町ファミリーハウス事務局	6
一般	1	ふらっと神保町	7
一般	1	一般社団法人D&A Networks	8
一般	1	神田プレイスメイキング実行委員会	9
一般	1	JIU ゲーミフィ研究会	10
一般	2	ちよダン	11
一般	2	すなっくちよだ	12
一般	3	一般社団法人ちよママ	13
一般	3	神田でバンダ	14
普請	—	優美堂再生プロジェクト実行委員会 (令和2年度第20回助成)	15

Program

- 13:00 開会
- 13:15 活動成果発表
7グループ（発表4分・質疑応答6分）
- 14:25 休憩
- 14:30 活動成果発表
7グループ（発表4分・質疑応答6分）
- 15:40 休憩
- 15:50 ポスターセッション
- 16:25 講評・サポート大賞
- 17:10 閉会

安井建築設計事務所 音楽サークル

文化芸術振興によるまちの賑わい創出

【代表者】 富田 直希 【主な活動地域（場所）】 神田地域

活動概要

安井建築設計事務所の地域にひらかれたスペースを活用し、音楽イベントなどを通じて、まちに賑わいを引き込みます。ジャズやクラシックの演奏、地域とのコラボ企画などを通じて、まちの人の「やりたい」を形にし、区民とともに主体的に関わる、まちぐるみの活動を展開していきます。



発表概要

この音楽サークルは、事務所の移転を機に、本日の会場でもある美土代クリエイティブ特区を拠点に、音楽イベントを開催してきました。この会場は、安井建築設計事務所のオフィス1階にあり、“まちにひらく”をコンセプトとした開かれた空間です。

音楽イベント「ジャズとアイスクリーム」では、“街を溶かす”をテーマにアイス屋台を開いている建築学生にも参加していただきました。奥では演奏が行われ、手前ではご家族が絵を描き、演奏後には子どもたちが楽しそうに裸足で走り回る。そんな光景がとても印象的でした。

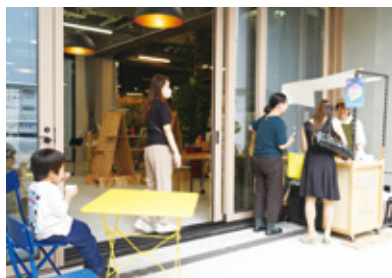
この学生とのつながりは、昨年3月に東京理科大学の卒業設計展がこの会場で開催されたことでした。そこで出会い、「一緒に何かできないか」という話が生まれました。その後、サントリーホールで使用されていたピアノを迎え入れ、「このピアノでイベントをやろう」と動き出したのが現在の活動の原点です。

助成金を活用したイベントの後、社内や近隣向けにピアノ開放イベントも企画しましたが、集客が伸びず成功には至りませんでした。無料イベントであるがゆえに主催者側のモチベーション維持が難しかったことも課題として残りました。

しかしその後、社員の徳永さんが知り合いの音楽の先生を招き、その方が主催となるイベントを開催したところ、多くの参加があり成功につながりました。外部主催となることで、集客が大きく変わることを実感した出来事でした。

また、神保町の「CAFE & BOOKS PASSAGE bis!」で開催された「すなっくちよだ」のイベントに、代表の富田が“ママ”として参加し、活動動向を紹介する機会もありました。この会場でも同団体主催の占い師を招いたイベントが開かれ、そこにも参加しました。今

後は、これまでの経験を踏まえ、より積極的に社外の方に関わってもらう機会を増やしていきたいと考えています。また、計画的な助成申請と情報発信の強化に取り組み、この場所の認知度向上に向けて頑張りたいです。



Comment



委員 この会場では、どのようなイベントを開催されていますか。また、それらは近隣の方も参加できる“まちにひらいた”内容でしょうか。

助成グループ これまで建築関係者による出版イベントなど専門的な内容を開催していますが、利き酒イベントのような地域向けの企画もあります。

委員 今後の展望で「社外の人にも運営側に関わってもらう」とありましたが、外部の方が運営に入るのは難しいのでしょうか。

助成グループ 場所をお貸ししながら社員が運営に入る仕組みづくりは進んでおり、ご相談に応じて会社として許容できる範囲を調整しながら進められると思います。

委員 この会場は平日の昼間はどのように使われていますか。

助成グループ 普段は社員の執務スペースとして使っていますが、イベントや展示会にも活用しています。

委員 休日のファミリー向けイベントや、平日のランチタイムにサロンコンサートがあっても良いと思いました。

助成グループ 音楽サークルとして、そういった取り組みも頑張っていきたいと思いました。

番町LOVER'S

番町地域に住む住民同士がつながり、
交流する機会をつくることで、地域の力を高め、
世代を超えたつながりを育む

【代表者】上野 恵子 【主な活動地域（場所）】番町地域

活動概要

番町地域で、住民同士が自然に挨拶できる関係づくりを目指し、食やカルチャーを通じた交流の場を提供します。医師の視点を活かし、身近な健康課題をきっかけに、病院に行く前の相談の場づくりにも取り組み、若い世代にも届く活動を展開していきます。



発表概要

あつという間の一年でした。まず実施内容ですが、審査会で「代表がドクターなら、それに関連した企画を考えてはどうか」とアドバイスをいただき、確かにその通りだと思い、健康講座を2回開催しました。第1回は「つぼで健康増進〜今日からできるセルフケア〜」として東洋医学に基づく内容を扱い、第2回は「そのいびき命にかかわるサインかも〜睡眠時無呼吸症候群を知り病気を防ぐ〜」を開催しました。

これらを企画した背景には、番町地域の住民同士が気軽に話したり集まったりできる場があったら良いのでは、という思いがありました。ただ、2回では十分とは言えず、集客のための告知方法をもっと工夫する必要があると痛感しました。毎回ハラハラしながら準備を進める大変さも実感しました。また、参加しやすい場所選びも重要でした。第1回は、以前まちサポで活動されていた「カフェ・アマルフィー」の一室をお借りし、とても良い環境で実施できました。一方、第2回は日程の都合で六番町の端の四ツ谷駅に近い「ニコラ・バレ修道院」の一室をお借りしましたが、場所が分かりにくく、当日参加を見合わせた方もいて残念でした。使いやすい会場の確保は大きな課題だと感じました。活動の成果としては、近くのフィットネスジムからコラボの申し出があり、今後につながる手応えを得られました。

第1回は13名が参加し、事前予約制というのも良かったのですが、講師の方の指導も丁寧で、参加者一人ひとりのツボの位置を確認しながら実技を行うなど、和やかで充実した内容でした。セルフケアを目的としていたため、帰宅後すぐに実践できるよう丁寧にサポートしました。

第2回は、開催前日から急に寒くなり、インフルエンザが大流行していた時期と重なり、当日発熱によるキャンセルが相次ぎ、集客の難しさを最も感じた回でした。

当初は世代間交流も期待していましたが、若いお母さんたちは仕事や家事育児で時間が取りにくく、参加が難しいという現実も見えてきました。



Comment



委員 集客や開催時期の難しさもあったと思いますが、今後やってみたい企画について、代表の先生とは話されていますか。

助成グループ 実際にやってみて初めて分かったことが多く、町会の集まりに参加するきっかけにもなりました。地域では高齢化が進み、外出しにくい方も多い一方で、健康への関心は高いと感じています。また、参加者からは「話を聞くだけでなく、体を動かす内容があると実感がともなう良い」という声もありました。来年度も機会があれば、そうした要素を取り入れた企画に挑戦したいと思っています。

委員 コラボの申し出があったそうですが、その内容はどのようなものですか。

助成グループ 近隣のフィットネスジムからの申し出で、気軽に体を動かせるトレーニングを想定しています。スペースの提供やトレーナーの派遣も検討してくださっており、一つの案として考えています。また、第1回の講座では、参加者同士が声を掛け合いながら一緒にツボを押すなど、場の一体感が生まれました。あのような“みんなで同じことを体験する”雰囲気は次回も大切にしたいと思っています。

サードキッチンちよだ

千代田区に感謝や助け合いで
“つながる”場をつくり、多世代が交流する
「偶発的な人との交差点」となり得る
ラウンジのようなサードプレイスを提供する

【代表者】上田 けい 【主な活動地域（場所）】 神田地域

活動概要

地域のつながりを育むため、全年齢対象の“つながる食堂”
で無料の食事と感謝の交流を提供します。人とのつながりを
育み、安心して過ごせる“いばしょ”を地域に広げていく
ことを目指します。

発表概要

3月28日（土）に第2回子どもみんな食堂を開催し、115名の方に参加していただきました。今回は、ちよだプラットフォームスクエア1階の「結ぶ食堂～しまゆし～」を会場としてお借りしました。ボランティアスタッフの皆さんと協力し、会場設営や参加者へのプレゼントとなる毛糸のボンボンモンスターを作りました。

カレーは150食を用意し、「桜日和」と「びかいち」が共同開発した「びかいちとうもろこしカレー」を提供しました。ブンブンチョッパーで材料を切り、アレルギー食材を使わずに作れる“みんなが作れて、みんなが食べられる”カレーです。お米は今回も千代田区社会福祉協議会から提供していただきました。今回は、子どもたちにより楽しんでもらえるよう、ボンボンモンスター作り、ボードゲーム、スタッフオリジナルのメイドコーナー、折り紙・シール絵本コーナーを設けました。どこで体験できるか分かりやすいよう、当日パンフレットを作成し、マップや内容を掲載して配布しました。各コーナーでは子どもたちとスタッフが一緒に楽しみ、スタッフからも「とても楽しかった」と声が上がりました。

運営費捻出のためのドリンク販売では、ノンアルコールドリンクやカクテルが好評でした。バーテンダーによるカクテルショーも行い、ショーで作ったカラフルなジュースを子どもたちにプレゼントすると、照れながらも嬉しそうに受け取ってくれました。アンケートでも「ドリンクが美味しくて楽しかった」という感想を多くいただきました。また、「神田でパンダ」とのコラボによるパンダコーナーでは、子どもたちがパンダのおみくじを書いてくれました。「ちよダン」ともコラボし、なりきりパンダダンスと千代田区歌ダンスを一緒に踊りました。

ドリンク購入者には、「びかいち」デザインの“ありがとうシール”をプレゼントしました。ありがとうコーナーには多くの方が感謝のメッセージを書いてくださり、ホワイトボードがいっぱいになりました。応援されるつながり、感謝を伝えるつながり、感謝されるつながりが生まれ、とても嬉しい時間となりました。

私たちの活動は、地域でのつながりと感謝の循環づくりを目的としています。参加者の方々には、楽しみながらゆるいつながりを感じてもらえたら嬉しいです。次回は9月5日に開催予定です。今回も「ちよママ」に告知協力をいただいています。



Comment



委員 地域のつながりがどの程度広がってきているか、アンケートから見えてきた点はあります。

助成グループ アンケートでは「参加者か支援者か」「知ったきっかけ」「年代」などを取得しています。結果として、参加者の7～8割は知り合いで、2～3割が外部の方でした。今後は外部の方の割合を増やしていけたらと考えています。

委員 回数を増やす場合の課題はありますか。

助成グループ メインメンバーは5人で、当日は25名ほどのボランティアに来てもらっています。仕事と並行して準備するため、年2回でも負担が大きい状況です。規模を小さくして回数を増やすか、1回をより充実させるか、今後試しながら考えていきたいと思っています。

委員 会場やお金の問題というより、人の負担が大きいということですね。

助成グループ はい。1回目の収支はプラスでしたが、2回目は少しマイナスでした。多少のマイナスは許容できますが、ボランティアのモチベーションも考えると、頻度が増えると負担が大きくなると感じています。

委員 多くのNPO・企業・町会を巻き込んで運営されていて、とても参考になります。ぜひそのプロセスを他のグループにも共有してください。また、大きなイベントは負担が大きいの、まずは10人規模の小さなイベントを重ね、仲間を増やしていく方法も有効だと思います。

04 ジェンダー eye

ジェンダーに関わる居場所づくり

【代表者】 我孫子 綺葉 【主な活動地域（場所）】 千代田区全域

活動概要

ジェンダー問題に関する、日常の中で感じる小さな疑問や気づきを安心して共有し、対話を通じて相互理解を深める場を提供します。活動を通じ、地域に根差した交流を育みながら、ジェンダーに関する課題への理解と共感を広げていきます。

発表概要

私たちの活動は、ジェンダーに関わる日々の“もやもや”を気軽に話せる場がないという思いから始まりました。ジェンダーに関する取り組みは講義形式が中心で、双方向の会話が生まれにくいという課題があります。そこで私たちは、対話を中心とした場づくりを大切に、相互理解を促しながら、安心して話せる時間をつくることを目的に活動を続けてきました。

イベントは年間2回開催しました。参加者は多くはありませんが、少しずつ増え、第1回7名、第2回7名、第3回9名と広がりが見られました。第1回（9月26日・DNPプラザ）では「ジェンダーバイアス」をテーマに、幼少期から現在まで自分にどんなバイアスがかかってきたのかを語り合いました。第2回（12月13日・飯田橋39base）では、ジェンダー平等の定義やジェンダーギャップ指数を導入に、自分の実体験を共有しました。第3回（3月30日・ブックハウスカフェ）では絵本を題材に、「男らしさ・女らしさ」から「自分らしく生きるとは何か」へと話を広げ、対話を深めました。

活動を通して感じた私たちの強みは、対立ではなく理解を生む場をつくられていることです。参加者からは「気づきを得られた」「普段話せないことを話せた」といった声が寄せられ、こうした前向きな感想をいただけたこと自体が、私たちにとって大きな成果だと感じています。対話を中心とした活動の意義を改めて実感する機会にもなりました。一方で、集客の難しさや、テーマゆえの心理的ハードルといった課題もありました。そのため、チラシやSNSの強化、テーマ設定の工夫、平日・休日の開催検証など、少しずつ改善を進めてきました。

今後は、対話イベントの継続・拡大、体験型コンテンツの充実、外部イベントへの参加、団体連携の強化の4つを軸に、地域に根付く活動として定着させていきたいと考えています。



Comment



委員 イベント開催を通しての手応えや、今後の方向性を教えてください。

助成グループ 外部イベントへの参加など、団体として知ってもらう機会を増やしたいと考えています。また、絵本を使った企画のように、関心がない方でも入りやすいテーマで対話を広げていきたいです。今後は、男女共同参画センターの登録団体同士の交流やコラボレーションも進め、活動の幅を広げていきたいと思っています。

委員 SNSの強化について、どの点を改善したいと考えていますか。

助成グループ Instagramを運用していますが、フォロワーが30名ほどで、投稿内容の工夫やフォロワーの増やし方を検討している段階です。より効果的な発信方法を探っていきたいと考えています。

委員 今回参加されている団体の中には、SNS運用に強い団体もありますので、そうした情報を共有し合えると良いと思いました。

番町ファミリーハウス 事務局

「ゆたかな時間」
by 番町ファミリーハウス

【代表者】 佐藤 洋平 【主な活動地域（場所）】 番町地域

活動概要

親と子それぞれが自身の時間を豊かに過ごせる「第三の居場所」を創出します。子どもには地域食堂と学習支援を通じて健やかな成長と心理的安全性を支え、保護者には気軽に相談・交流できる場を提供することで、親子のための居場所づくりに取り組みます。

発表概要

当初の計画では、子育て世帯の居場所づくりを目指して活動を始めました。しかし、途中でメンバーの離脱が相次ぎ、継続が難しくなりました。私自身も子育て世帯であり、親子が安心して過ごせる場が必要だと感じていましたが、取り組む中で、コミュニティの力でできることと、専門的な医療や支援が必要な部分との間には大きな壁があることに気づきました。そのため昨年秋頃から方向転換を行い、コミュニティでできることを改めて模索することになりました。

当初は地域食堂や学習支援とあわせて、親が一息つける「親子のための居場所づくり」を計画していました。しかし実際には、親子が離れて過ごす時間はすでにあり、むしろ一緒に過ごす時間や空間が不足していることがわかりました。そこで、「食」に着目し、「味覚のアトリエ」というコンセプトを立て、親子で出汁を味わいながら「おいしいね」と感じ合うワークショップを実施することにしました。参加者の中にはケアが必要なお子さんを持つご家族もあり、一組一組に寄り添う形で開催しました。

その後2回の開催を予定していましたが、インフルエンザや講師の体調不良により中止となりました。ただ、地域の子育てを終えた方々にアドバイスをいただき、今後の方向性を話し合う機会が生まれたことは大きな収穫でした。

活動を通して、番町地域のリアルな姿も見えてきました。子育て世代、子どもの世代、子育てを終えた世代、シニア世代と、さまざまなレイヤーと関わるなかで、都心で人口は多いもののコミュニティは弱く、古くからの住民と新しい住民の交流が少ないことがわかりました。学校や幼稚園を通じなければ同世代とつながれず、住民が増えるほどその壁は厚くなっているように感じます。

今回の活動で強く感じたのは、子育て支援は予定通りに進まないこと、そして私たちができるのは専門的支援ではなく、コミュニティの力で人とつながる場をつくることだという点です。また、私自身も多くの活動に関わるなかで「自分の居場所がない」と気づき、誰かを特別に助けるのではなく、日常を共有することの大切さを実感しました。今後は自分事として、地域の課題に取り組んでいきたいと思いました。



Comment



委員 次のステップとして、どのような展開を考えているのか教えてください。

助成グループ 今回の活動を通じて、幼稚園～小学生のお子さんを持つお母さんたちと会う機会が増え、その中で多くの方が「居場所がない」と感じていることがわかりました。子どもを連れて安心して過ごせる場所をつくるのが必要だと感じ、形は未定ですが準備を進めています。

委員 集客に苦労されたとのことですが、どのような方法でアプローチされましたか。

助成グループ 今回は直接お母さんたちに声をかけました。最初のご家庭が音に敏感なお子さんをお持ちのため、広く集客しませんでした。その後は、ウェブと声を併用しました。テーマ設定の難しさもあり、集客が課題というより内容の調整が難しかったと感じています。

委員 もっとシンプルに、楽しさを前面に出すと参加しやすくなると思います。チラシや伝え方を工夫して、より軽やかに楽しい表現にすると、共感してくれる人が増えるはずですよ。テーマや食の切り口はとても良いので、伝え方や見せ方を少し変えるだけで広がりが出ると思います。

ふらっと神保町

「神保町の生活史」プロジェクト

【代表者】 中野 健太郎 【主な活動地域（場所）】 神保町地域

活動概要

神保町に関わる人々の人生を聞き取り、記録することを目的に活動しています。個人の語りを集約することで、街の変化や日常のリアルな姿を浮かび上がらせ、多様な文化的背景を持つ神保町の“今”を、社会学的手法により丁寧に記録・発信していきます。

発表概要

このプロジェクトは、神保町に住む・通う・かつて暮らしていた人たちの人生＝生活史を記録していく取り組みです。最終的には、50人ほどの語りを集めた冊子をつくることを目標にしています。神保町ブックフェスティバルが雨天中止になったり、思うように進まない部分もありましたが、その中でもできることを積み重ねてきました。

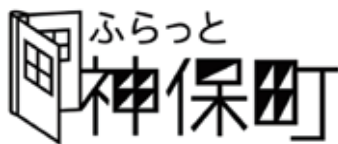
今年度は、CAFE & BOOKS PASSAGE bis! にて2回イベントを開催しました。第1回（9月27日）は「質的社会調査の手法に学ぶ生活史勉強会」で、関係者以外に5名ほど新しい方が参加してくれました。第2回（12月21日）は岸政彦さんの『生活史の方法』を読む読書会で、ここでも7名ほど新しい参加者が来てくださり、そのうち3名が「プロジェクトに関わりたい」と言ってくれました。

インタビュー記事はこれまでに3本公開しています。スキートポーツでアルバイトをしていた方の思い出、高山本店の高山肇さんのお話、富山から上京し今も神保町に暮らす“たまこさん”の生活史です。現在、原稿確認中の記事が4本進行しています。

また、インタビュー2本を収録した小冊子も制作しました。スキートポーツのエピソードと、カフェ・トロワバグ店主・三輪徳子さんのインタビューを収録し、縁のある場所に置かせていただいたところ、「お散歩神保町編集部分室」に置いた約100部が1週間ほどでなくなってしまい、誰が持っていったのだろうと驚きました。SNSでも「冊子を手に入れた」と投稿してくださる方がいて、反応の大きさを感じています。

また、他のグループのイベントに参加するなど、連携を図ることもできました。一方で、運営を継続する難しさや、語り手とのトラブルにより掲載を断念したケース、原稿確認の際に語り手の心情に配慮が必要だと感じた場面もありました。

小冊子制作やイベントは満足のいく形で取り組むことができましたが、来期の申請については検討中です。



Comment

委員 来期の申請を未定とした理由を教えてください。

助成グループ インタビューの進行や原稿確認などを、どこまで自分が担い、どこまで他のメンバーに任せるのか、その線引きが難しく、全体を把握しながら進めるのが想像以上に大変でした。運営側には、第三者として全体を見れる人が常にいる体制が必要だと感じていますが、今はそれが整っていません。また個人的には、4月から東京大学大学院 情報学環・教育部でメディアを学び始め、実践プロジェクトや共同研究が盛んな環境に触れています。この活動の話をするととても刺さるので、そこで仲間をつくり、体制を整えてから改めて申請しても良いのかなと考えています。

委員 小冊子は装丁も良く、厚みもちょうどよくて、多くの人が持っていたのだと思います。結果が出ているのに自己採点が低くて驚きました。小冊子の感想や、誰が持っていたのかを少しでも集めると、作り手のモチベーションにもつながりますし、「この方にインタビューをお願いしてみよう」と次の展開にもつながります。負担にならない範囲で情報を集めていくと、運営に関わりたい人も増えてくると思います。結果は出ているので、うまく活かしていけると良いと思います。

一般社団法人 D & A Networks

食を通じたまちづくり
～こどもたちがブランドを作る！～

【代表者】 中田 弾 【主な活動地域（場所）】 麹町地域



活動概要

千代田区の子どもたちと共に食材を育て、それらを使ったオリジナルメニューを提案・販売することで、まちに笑顔と交流を広げる活動です。子どもたちの創造力と地域のつながりを生かした、持続可能なまちづくりの実現を目指して活動していきます。

発表概要

中間発表会では、地域の子どもたちと進めてきたドリンクメニュー開発についてご報告しましたが、本日はその後の取り組みについて発表させていただきます。昨年12月には番町九段クリスマスマルシェに参加し、子どもたちと考案したドリンクを試行販売しました。地域の皆さんだけでなく、開発に携わった子どもたちや、施設でミントを育てている子どもたちも足を運んでくれました。

2月には「すなっくちよだ」主催イベントに参加しました。子どもたちには喜んでもらえていることが分かりましたが、まちに普及していくためには大人の皆さんにも楽しんでいただく必要があると考え、ご意見をいただきました。3月の「サードキッチンちよだ」主催イベントでは、ドリンクに加えて私たちが運営する施設の子どもたちと開発した“びかいちカレー”も提供していただき、完成形に近いドリンクを多くの方に飲んでいただくことができました。

後半の半年は、地域の方に体験していただきながら商品をブラッシュアップする機会となりました。開発した子どもたちからは「完成して嬉しい」「違う商品も作ってみたい」といった前向きな声が寄せられ、大人の皆さんからも「すっきりしていておいしい」「また購入したい」とご好評いただきました。さらに、活動自体を応援しているよという声も多く寄せられ、取り組みへの励みとなりました。

当初の目標は商品開発ではなく、商品を通じて地域交流のきっかけをつくることでした。さまざまな団体との連携により、その形が少しずつ見え始めています。また、助成金終了後の収益化も視野に入れ、今年度中に地域カフェでの販売が決まり、活動費の一部をまかなえる見通しも立ちました。

来年度は、商品ラインナップの拡充や参加する子どもの増加、紹介動画の制作など、活動の横展開を進めていきます。今回作成した冊子は活動記録用でしたが、購入者にも配布し、子どもたちのストーリーを感じながらドリンクを楽しんでいただければと考えています。



Comment



委員 収益化という点で、どこで販売できそうか、また今後の課題があれば教えてください。

助成グループ ドリンクは、開発に関わっていただいた千代田区役所10階のカフェ&バー「桜日和」で販売していただく予定です。常時営業しているカフェのため、多くの方の目に触れる場所で販売できる見込みです。課題としては、子どもたちの自由な発想と、商品として成立させるための品質調整のバランスです。今後も適切なサポートが必要だと感じています。

委員 必要量が増えた場合、どれくらい作れますか。また、いつまでに依頼すればよいですか。

助成グループ シロップはカフェで作り、現場で薄めています。イベントでは1日30～50杯、最大150杯まで対応可能です。準備は1～2か月前にご依頼いただければ対応できます。シロップづくりの体制が整えられれば、さらに大量生産も可能になります。

神田プレイスメイキング 実行委員会

神田の未来を描き、
共有し、実現へと向かう

【代表者】 渡部 裕樹 【主な活動地域（場所）】 神田錦町地域

活動概要

神田錦町周辺を対象に、地域の声を集めて将来像を描くワークショップを実施しています。集まった思いをイラスト化し、未来の神田像を共有することでつながりを広げます。

将来的には、描いた将来像を実現するための連携・調整組織の検討にもつなげていきます。

発表概要

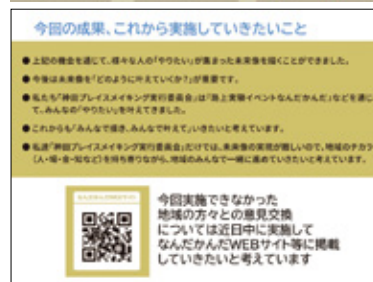
私たち神田プレイスメイキング実行委員会では、地域の皆さんから伺った声をもとに、未来の神田錦町をイラストで表現したリーフレット“みんなで描き、みんなで叶えよう 神田錦町の未来”を制作しました。

神田錦町で開催された「神田錦町大歓迎会」（7月4日）、「神田錦町ご縁日」（9月26日）、そして「なんだかんだ12」（11月3日）の3つのイベントに出展し、地域のさまざまな思いやアイデアを伺いました。言葉だけでは伝わりにくいアイデアも、イラストにすることで共有しやすくなり、地域の未来像としてまとめることができました。

本来は、町会や企業の皆さんとも意見交換を行い、その内容も反映したかったのですが、編集作業に時間がかかり今回は間に合いませんでした。今後改めて対話の機会をつくり、内容を深めていきたいと考えています。

また、7月のイベントで寄せられたアイデアのうち、「公園に電車を走らせたい」という未来については、過去にまちサポ助成を受けた「東京高架下軌道」の協力と、公開空地をご提供いただいた事業者の皆さまのお力を得て、「なんだかんだ12」でミニSLを走らせることができました。「お昼にキッチンカーがたくさん来てほしい」という声についても、当日は4台のキッチンカーが来店し、にぎわいを生み出すことができました。地域の皆さんの協力によって、こうした未来の姿を実際に実現できたことは大きな喜びでした。

今回、多くの方の“やりたいこと”を集めて共有することができましたが、これを“絵に描いた餅”で終わらせず、どう実行していくかが大切です。私たちだけでは実現が難しいことも多く、地域の皆さんのノウハウや場所、資金など、さまざまな力を持ち寄りながら、みんなで未来をつくっていききたいと考えています。今後は、リーフレットに描かれた未来を実現するため、体制や活動の効果をさらに強化していきたいと考えています。



Comment



委員 イベントが地域の“居場所”になる展望はありますか。

助成グループ さまざまな団体がつながる“場”をつくるのが重要だと考えています。神田には空間資源も多く、錦町三丁目をはじめ、共有できる場所が増えることで活動が広がると感じています。

委員 実現するアイデアは地域の皆さんと決めていく方針でしょうか。

助成グループ 「なんだかんだ」で投票などを行い、実現できそうなものから取り組む方法も試してみたいです。

委員 地域の方との対話を重ねる中で、「この地域にとって大切なこと」や「別の場所の方が向いていること」が見えてくると、地域の再認識につながります。そうしたプロセスが大切ですね。

委員 神田の人は“やりたい”と思ったら実行が早く、実現してしまう力があります。実現のプロセスを共有できると神田らしさがより見えてきますし、情報が集まる場としても価値が生まれるはず。これができたから次はこれをやろう」という循環が生まれると良いですね。

JUゲーミフィ研究会

千代田区のコミュニティをカードゲームで活性化

【代表者】 野呂 楓 【主な活動地域（場所）】 麹町地域

活動概要

千代田区の魅力を発掘し、カードゲームを通じて地域の人々をつなげるプロジェクトです。学生が地域を歩いて集めたリアルな情報をもとに、世代をこえた交流のきっかけとなるゲームを制作し、地域資源を活かした“遊びながら学べるまちづくり”を目指します。

発表概要

私たちは城西国際大学メディア学部が主体となり、「千代田区のコミュニティをカードゲームで活性化する」をテーマに1年間活動してきました。千代田区の魅力を伝え、多世代交流のツールとなるオリジナルカードゲームの制作が目的です。ネットで情報が得られる時代だからこそ、学生自身が商店や施設に足を運び、地域の方との会話から得た“生の魅力”をカードに落とし込みました。制作にはローカルファーストゲームの仕組みを活用し、企業や店舗、地域課題もカード化しました。プロジェクトは3年計画で、1年目の今年度は大学周辺の麹町・半蔵門・永田町エリアを中心にリサーチを行いました。

活動ではまずゲームの構造を研究し、その後150の店舗や施設にアポイントを取り取材を実施しました。夏休みの活動停滞やアポ取りの難しさなど苦労もありましたが、街を歩き地域の方から直接お話を伺う経験は非常に実りあるものでした。取材を通じて街への理解が深まり、学生自身が地域を“自分ごと”として捉えるきっかけにもなりました。

完成したカードゲームでは、お店のカードに段階的な情報を設定し、最高得点の5点には常連でも知らない特別なストーリーを盛り込みました。1月末には完成披露体験会を開催し、約30名が参加。「知っているお店の知らない一面が知れて面白い」といった声もあり、世代を超えた交流が生まれました。

一方で、説明書制作に専門知識が必要となり追加レクチャーを受けたことや、デザイン修正費用の発生など、見通しの甘さが課題として残りました。

制作したカードは、今後、販売ではなくワークショップのツールとして活用します。代表は卒業しましたが、新3年生中心の14名で活動を引き継ぎ、2年目はルールやデザインを再構築し完成版を目指します。3年目には千代田区全域を対象とした総合型ゲームへ発展させる予定です。



ゲーム説明動画



Comment



委員 今後の計画や引き継ぎについて、どのように考えていますか。

助成グループ 今年担当する3年生は、多くが昨年度から制作に関わっており、取材方法やカード化のノウハウはすでに蓄積されています。今年は体験会で出た課題を踏まえ、ルールやデザインを見直します。また、小学生でも遊べるようにルール追加の意見もあり、取材を重ねながら反映していきます。最終的には、私たちがいなくても地域の方がワークショップで活用できる完成形のゲームにしたいと考えています。

委員 お店などの情報更新や活動の引き継ぐべき課題や改善点があれば教えてください。

助成グループ 全エリアを統合する際にはデータを見直し、必要に応じて再取材も行い最新情報を反映したいと思います。課題としては、課題カードと資源カードが一致しない場面があったため、今後は、カード同士が対応するよう改善していきます。

11 ちよダン



ちよだの合言葉となる
「区歌ダンス」を踊って、つながろう

【代表者】 野口 幸代 【主な活動地域（場所）】 千代田区全域

活動概要

千代田に関わる人たちがダンスを通じてつながり、いざという時に助け合える関係を育む“まちづくり”の活動を行っています。千代田区にとって親しみやすい「千代田区歌」をダンスに取り入れることで、ダンスが苦手な方でも気軽に参加できる機会を創出しています。

発表概要

私たちは「毎月交流会を続ける」と宣言し、その言葉どおり年間やり抜くことができました。参加者が4人の日もありましたが、少ない人数でも、雨の日でも風の日でも活動を止めることはありませんでした。集まって踊ると、みんなが笑顔になって帰っていく。その姿を見るたびに、この活動を続けてきて本当によかったと感じています。

開催場所も、千代田区のさまざまなエリアで行うことを大切にしました。助成決定前は千代田区役所10階桜日和をお借りし、決定後は富士見区民館、飯田橋39base、万世橋区民館、麹町区民館など、さまざまな場所で交流会を実施しました。

また、「打ち水ジャック」という目標を掲げ、8月1日の“水の日”に、大妻女子大学と共立女子大学の皆さんと一緒に「芝生広場で打ち水 in 日比谷公園」を開催し、浴衣姿で打ち水をした後にダンスを踊りました。打ち水は、第1回目に株式会社栃木屋さんにご協力いただき、その後はちよだプラットフォームスクウェアや飯田橋39baseでも実施しています。

そのほか、半纏10枚とビブス30枚を制作しました。ビブスは、円になって踊る際に内側と外側が分かりやすいようリバーシブル仕様になっています。また、ホームページについては、千代田区のデジタル支援を活用し、9回の勉強会を経て自分たちで作り上げました。

学校との連携も広がり、大妻女子中学校高等学校合唱部には千代田区歌の収録にご協力いただき、麹町小学校合唱部とはイベントで一緒に活動するなど、学校との繋がりも広がりました。そして今年最大の取り組みが、3月22日に日比谷公園図書文化館で開催した「～みんなでつくろう～ つながる！フェスティバル」です。区内で活動する14団体から出題されたクイズに紅白チームが答える“紅白クイズ大会”は、互いの活動を知り合う貴重な機会となりました。大妻女子中学高等学校合唱部の歌声に合わせた区歌ダンスや、「神田でパンダ」さんとのコラボから生まれた“パンダなりきりダンス”も踊りました。このフェスティバルは来年度も続けていきたいと考えています。



Comment



委員 学校との連携はどのように進めているのですか。

助成グループ 「ちよだコミュニティ・ラボ」のラボ・ライブに大学の方が参加されており、そこからつながりが生まれたケースがあります。また、知り合いに紹介をお願いしてつないでいただくこともあります。

委員 活動の役割分担はどうされていますか。

助成グループ 役割分担はしていますが、負担が偏ることもあるため、今年はイベントに参加者されている方から運営に関わる仲間を増やしていきたいと考えています。

委員 巻き込み力が本当にすごいと感じました。千代田区には企業も多いので、今後は企業との連携も進み、資金面も含めて持続可能な形に発展していく可能性があると思います。スポンサーがつく未来も期待しています。

すなっくちよだ

サードプレイスのような
誰でも参加できる居場所づくり

【代表者】 鍛 紗弥佳 【主な活動地域（場所）】 千代田区全域

活動概要

地域に暮らす方や働く方がふらっと立ち寄り、安心して過ごせる“もうひとつの居場所”を作ることを目的に活動しています。千代田区内の飲食店やスナックなどを1日貸切り、参加者同士のつながりを育んでいます。“誰かのまちの、もうひとつのサードプレイスづくり”を後押しできるような存在を目指します。

発表概要

今年は3回、異なるエリア・異なるテーマで「すなっくちよだ」を開催しました。場所や内容が変わることで、それぞれに特色が生まれ、とても良い取り組みになったと感じていますので、ご紹介します。

まず、11月26日は飯田橋のRAKURAKUで開催しました。ここは何度か使わせていただいている、スナック居酒屋のような、カラオケもある楽しい場所です。告知が遅くなってしまい、どれくらいの方が来てくださるか不安だったのですが、結果的に20名ほどの方にご参加いただきました。常連さんも多く、早い段階からカラオケ大会が始まり、にぎやかで楽しい会になりました。

2月18日は神保町のCAFE & BOOKS PASSAGE bis!で開催しました。ふらっと神保町の中野さんに会場をご紹介いただき、まちサポ助成グループの4名の方に“ママ”として入っていただきました。そこに、すなっくちよだの2名のママも加わって、合計6名のママがそろいました。いつもは2～3名で20名ほどに対応しているため、一人あたりの時間が限られてしまうのですが、この日はママが多かった分、一人ひとりがゆったりと参加者と話すことができ、とても良い時間になりました。当日は、中田さんに開発中のドリンクを出していただき、来ている皆さんに感想を伺う場面もつくることができました。千代田区に関係のある方が多かったので、ママ同士の話も自然と盛り上がり、会場全体がにぎやかなイベントになったと思います。

3月6日は美土代クリエイティブ特区をお借りして、タロットの講師の方をお招きし、「タロット占いすなっくちよだ」を開催しました。参加人数が8名だったため、個人的な悩みを相談し、タロットで占ってもらったり、参考になる話を聞いたりすることができ、とても興味深い時間になりました。会場をデザインした女性建築士の方にもご参加いただき、コンセプトやどのような思いでこの空間をつくられたのかも直接伺えて、こちらも面白かったです。



Comment



委員 助成グループの方々が“ママ役”となりましたが、どのように評価されていますか。

助成グループ 当初の想定とは違いましたが、結果として良かったと感じています。さまざまな活動をされている方と一緒に場をつくることで、新しい交流が生まれ、次につながるきっかけも増えました。

委員 来期は3年目ですが、最終的なゴールを教えてください。

助成グループ まだ明確には決まっておらず、話し合いが必要だと考えています。コラボレーションを通して、“いろいろな人をつなぐ潤滑油”のような存在になれると感じました。その魅力を整理し、活動の意義を伝えられる形にまとめていきたいと思います。

一般社団法人ちよママ

SNSを活用した 千代田区の子育て情報発信および、 子育て世代のネットワークづくり

【代表者】勝連 万智 【主な活動地域（場所）】 千代田区全域

活動概要

千代田区で子育て世帯のつながりづくりを目的に活動するグループです。地域イベントやSNSを通じて、子育てに役立つ情報を発信し、交流の場を提供しています。現在は情報配信の充実や収益化を進めながら、地域課題の解決にも取り組んでいます。

発表概要

ちよママは、10年以上にわたり千代田区を中心に活動を続け、まちサポとしての助成も今期で3年目となりました。SNSを活用した子育て情報の発信と、子育て世帯のネットワークづくりを主なテーマに取り組んでいます。

SNSの成果として、Instagramフォロワー数は助成金申請時から約3.3倍、閲覧数は約3.4倍、リーチ数は約5.2倍に増加しました。今期は地域イベント情報をストーリーズでほぼ毎日配信し、遊び場紹介やイベント参加レポートなど動画コンテンツを強化したことで、投稿のエンゲージメント向上につながりました。また近隣区の情報も発信し、利用者の関心の幅を広げています。公式LINEの登録者数も2.1倍に増加しました。

ちよママのSNS配信メンバーは毎年公募で募集しており、高いモチベーションを持って参加してくださるママさん達に支えられています。今期はそのメンバーとの交流会を定期的に開催し、子育て世代が求める情報や地域課題について意見交換を行いました。SNS講座では、子どもだけでも、また親子でも参加できる「スマホでショート動画を作ろう」講座を開催しました。これまで以上に質と内容ともに高い講座を実施できたと考えています。

11月には千代田区子ども支援課と連携し、保育園入園手続き動画を制作・公開しました。「申請方法が分かりづらい」「どこに相談すればいいのか迷う」といった声を受け、申請書類の流れや提出時のポイントを分かりやすくまとめたもので、「こんなところまで説明してくれるとは思わなかった」「全体像がつかめて助かった」といった反響をいただきました。

さらに行政との動画制作をきっかけに企業・クリニックからの協賛問い合わせが増え、実際に2件の協賛を受けて動画制作を行うなど、助成金以外の収益化の可能性も見え始めました。これは今期の大きな成果と考えています。来期以降も行政連携や団体とのコラボを進め、自走化の仕組みづくりを模索しながら、「地域と子育て家庭をつなぐ情報基盤」としてSNS活用をさらに強化していきます。



SNS発信の成果

- ・ Instagramフォロワーは805人から2,678人へ増加（約3.3倍）
- ・ LINE登録者は364人から776人へ増加（約2.1倍）
- ・ Instagram投稿閲覧数は約3.4倍に増加
- ・ リーチアカウント数は約5.2倍に増加
- ・ フォロワー外からの閲覧が約60%を占め新規層への情報発信につながっている

SNSを通じて地域の子育て世帯への
情報提供の範囲が大きく広がった



Comment



委員 「サードキッチンちよだ」さんの紹介動画を作成された経緯を教えてください。

助成グループ 交流会で「情報発信をお手伝いします」というチラシを配布したところ、ご連絡をいただき、イベント内容を持って紹介動画を制作しました。

委員 今後の資金調達について、どのように考えていますか。

助成グループ 収益性を強く出さず、地域の方に喜んでいただける形を大切にしたいと考えています。サブスク型も検討しましたが、まずは理念に共感してくださる企業から少額でも協賛をいただき、その企業の情報発信をお手伝いする形が現実的だと考えています。チーム内で引き続き模索中です。

13 神田でパンダ

神田のまちをパンダで
盛り上げよう



【代表者】石垣 曜子 【主な活動地域（場所）】 神田地域

活動概要

パンダのキャラクターを通じてユーモアと笑いを取り入れながら、神田の地域活性化を目指し、神田錦町の「キンキン広場」を拠点に、町会の枠を越えたつながりづくりや「神田らしさ」の再発見を促す活動を展開しています。神輿山車をモチーフにしたキャラクター「パンダ明珍」が地域イベントに出没し、まちの人々をつなぐ存在として親しまれています。



発表概要

助成金をいただいてから今年で3年目となりました。2020年、2021年と活動を続け、地域のイベントにも参加してきましたが、今年は3年目の助成金を受けられたことで、より本格的に活動を深めることができました。前半の取り組みは中間報告会でお伝えした通りですが、ここでは後半の活動をご紹介します。

11月3日には、「神田プレイスメイキング実行委員会」さん、「ちよダン」さん、「サードキッチンちよだ」さんなど、地域の皆さんとつながりながらイベントに参加しました。コロナ禍で助成金を得た頃とは違い、地域とのつながりが生まれたことが大きな変化でした。当日は「パンダのおみくじ作り」と「記念写真撮影」に挑戦し、子どもから大人まで幅広い世代に好評をいただきました。神田でのパンダ活動の軸になる手応えを感じた場でもあります。

12月7日には、神田スクエアで「かんだdeパンダまつり！」を主催しました。地域のカメラマンさんにも協力いただき、本格的な記念撮影を実施。神田には意外と「記念写真を撮る場所」が少ないため、地域の中で思い出を残せる場をつくれたことは大きな成果でした。また、しまひろこさん作の「なんだかんだパンダでGO」という神田にぴったりの曲を見つけ、ご本人やJASRACと調整して使用許可をいただきました。さらに、ちよダン代表の野口さんに「パンダなりきりダンス」を振り付けていただき、みんなで踊れたことも楽しい経験となりました。

2021年の助成金で制作した「パンダ神輿（パンダ明珍）」も、動くパワースポットとしてさまざまなイベントに参加しています。おみくじやお賽銭箱を設けることで、神田が大切にしてきた祭礼文化を身近に感じてもらえる機会にもなりました。

来年度からは助成金なしでの活動となりますが、祭礼・おみくじ・パンダなりきりダンス・パンダクイズなどを携え、地域の皆さんとコラボしながら、これからも神田を盛り上げていきたいと思っています。



Comment



委員 経済的な面は心配ありませんか。

助成グループ 安定した収入源がないため不安はありますが、「パンダ神輿」のレンタル料や企業協賛、お賽銭など、地域の皆さんに支えていただいています。こうした取り組みを続けながら、今後はより安定した活動を目指していきたいと思っています。

委員 メンバーの皆さんからも一言お願いします。

助成グループ 皆さんのおかげで、昨年は「パンダ神輿」を千代田区体育大会に持参し、子どもたちがとても喜んでくれました。今年も外濠公園総合グラウンドを練り歩きますので、お時間があればぜひ見に来てください。





優美堂再生プロジェクト 実行委員会

優美堂を再生しコミュニティ形成拠点として
多様な文化活動を誘発する

〔代表者〕 中村 政人 〔主な活動地域（場所）〕 優美堂（神田小川町2丁目）

活動概要

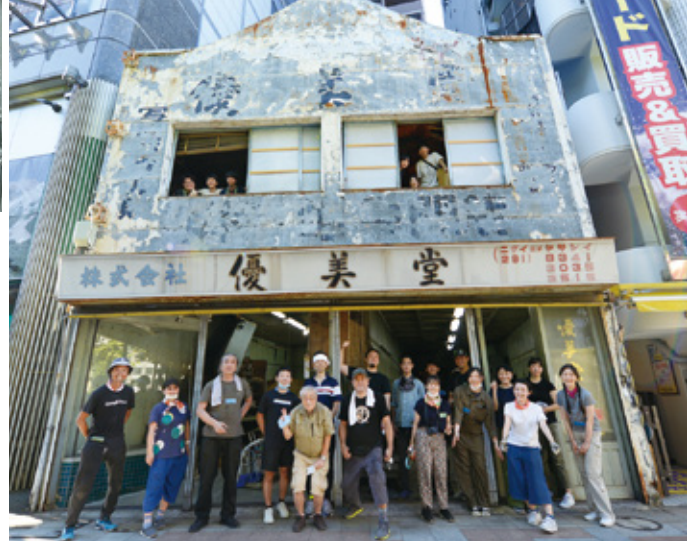
絵画の額縁店・ギャラリーで、住居でもあった優美堂を世界のアーティストが滞在制作するアーティストレジデンスプログラム(AIR)を通じて、地域コミュニティの国際文化交流が生まれるクリエイティブサロンとして再生しました。建物は構造補強をして、木造建築を生かした工法で、リノベーションしています。

発表概要

小川町にある優美堂は、戦後まもなく建てられた看板建築で額縁の専門店です、地下には防空壕も残る非常に特徴的な建物です。長年気になっていた場所でしたが、2020年に縁があり、企画書を持って訪ねたことをきっかけに、期間限定5年間の借用が実現しました。そこで「優美堂再生プロジェクト」を立ち上げ、Facebookで参加者を募ったところ、地方から2時間かけて通う方もいるほど、多くの人が関心を寄せてくれました。活動を続けるうちに、個人的な背景や仕事を超えて気持ちがつながり、優美堂という場所を媒介に、その土地に積み重なった歴史や記憶を共有する場が自然と生まれていきました。

建物は木造で、専門家は一人だけ、あとはボランティア中心で作業を進めました。改修後の活用方法を考えるワークショップも行い、学生や経験者がチームを組んで議論を重ねました。掃除や片付けが進むにつれ、場に対する愛着が育ち、今でも当時生まれた深い絆がしっかりと残り続けています。木造建築に触れること自体が大きな挑戦で、モルタルを練って水平を出すなど、手を動かしながら建物と向き合う経験は非常に貴重でした。二軒長屋がわずかにずれて接続されているなど、図面では分からなかった発見もあり、建物そのものが学びの場となりました。

優美堂のような看板建築は神田でも貴重な存在であり、地域の記憶として留めていきたいと思っています。現在も毎月プロジェクトが行われ、海外からのアーティストレジデンスも人気で、作品の制作や国際交流の場にもなっています。



Comment



委員 2026年8月末の借用終了後、新しい場所でも今の取り組みを継続できるでしょうか。

助成グループ 現在、馬喰町と神保町に新しい拠点を作る計画があります。神保町の拠点も木造で、こちらも期間限定になりそうです。ただ、建物が最後を迎える際には、ただ壊すのではなく、感謝の気持ちを持って向き合いたいと思っています。ここで得た経験は関わった人にとって大切で、建て替えが進む都市の中で、こうした意識を持つことが必要だと感じています。

委員 地域への波及効果や地域の方々の反響について教えてください。

助成グループ 私たちは小川町の町会に加入しており、町会の活動が地域を知るきっかけになり、とても助かっています。また、優美堂に来る人たちは地域に親しみを持ってきていて、看板犬“ののちゃん”の散歩でも地域の方が声をかけてくれ、関係が深まっています。

委員 他にも同じような取り組みをしたいという声はありますか。

助成グループ：多くの建築の学生や研究者が見学に来ますが、同じことを実践するのはハードルが高いと思います。コストが大きく、回収を前提にすると自由度がなくなってしまします。そこが難しいところです。

Photo album | 活動成果発表会写真集



第25回 千代田まちづくりサポート大賞発表



サポート大賞は、「一般社団法人ちよママ」が受賞されました。



SNSで千代田区の子育て情報を発信し、親同士のつながりを育む団体です。今期は動画発信や行政連携が進み、「地域と子育て家庭をつなぐ情報基盤」として大きく成長しました。今期で卒業となりますが、今後のさらなる活躍を応援しています。



このたびは素敵な賞をいただき、ありがとうございます。ボランティアで活動しているなかでは、思うように進まず立ち止まりそうになる瞬間もあり、「どう続けていけばいいんだろう」と悩んだ時期もありました。そんなとき、助成という形で応援してくださり、たくさんの方に温かい言葉をかけていただいたことを、強く感じた3年間でした。千代田区で12年間、子育てとともに続けてきた活動でこうした賞をいただけて、感無量です。本当にありがとうございました。



HP





委員
あかうみ けんすけ
赤海 研亮
コミュニティ総務課長

まちづくりの活動は、どうしても「イベントを行うこと」や「何かを作ること」が目的化しがちです。忙しいほどその傾向は強まりますが、時々立ち止まり「何のために取り組んでいるのか」を見つめ直すことで、活動により豊かさが生まれると感じました。また、参加者を単なるオーディエンスではなく、いずれ活動の仲間として関わってもらふ視点も大切です。今回の発表では、団体同士の横のつながりが生まれていることに驚きました。こうした連携は今後の大きな力になるはずです。一方で、チラシ配布や区民館利用の難しさなど区側の課題も見えました。まちサポの仕組みを活かすためにも、地域理解や公共施設の利用環境の改善に区として取り組む必要があると感じています。皆さんの一年間の活動が、次の展開につながることを期待しています。



委員
せき まゆみ
関 真弓
NPO法人都市住宅とまちづくり研究会
理事長

今までにないくらい多くのコラボが生まれ、一見うまくいかなかったことも次へのステップとして前向きに捉えている姿がとても印象的でした。第26回への申し込みを考えている方も、少し休んで別の角度から考えてみようという方も、今日の方が良いきっかけになればと思います。いつもと違う素敵な会場のおかげで、発表も柔らかい雰囲気でも聞くことができました。そのほかの活動場所にも、こういった形でいろいろと出向いていきたいと思っていますので、ぜひこれからも活動を続けていただければと思います。OBグループもこの20数年間でたくさんありますので、そうしたつながりも活かしながら、今後も皆さんの取り組みが広がっていくことを期待しています。



委員
たに まりこ
谷 眞理子
元「千代田区青少年委員会会長」

今日は本当に楽しい一日でした。皆さんの発表を聞きながら、活動の場所が神田と番町・麹町に分けられているのが気になって、どうにか千代田区全体で一緒に取り組めるような形にならないものかと、今日も感じてしまいました。コラボもどうしても神田地域が中心になっているので、番町・麹町地区としては少し寂しさを感じています。そのあたりを皆さんにも考えていただきながら、ぜひいろいろと取り組んでいただけたら嬉しいです。



委員
た くら ま てるや
田熊 哲也
興産信用金庫 地域支援部
お客様支援課 地域振興担当課長

今回は、はじめて部門から助成1回目・2回目・3回目まで、活動の段階が異なる皆さんが一室に会し、共有しながら発表できたこと自体に大きな喜びがあったと感じました。各団体のプレゼンも時間が足りないほど内容が充実しており、もっと話したいことがあったのではと思う場面も多くありました。ポスターセッションも非常に良く、今後の発表会や公開審査会でも取り入れてほしいと感じました。また、皆さんが自信を持って発表される一方で、それぞれ課題にも真摯に向き合い、継続したいという思いが強く伝わってきました。まちづくりへの思いは共通しており、コラボだからこそ乗り越えられる課題もあると感じました。皆さんのこれからのご活躍を心から楽しみにしています。



委員
ほし さとる
星野 諭
(一社) 移動式あそび場全国ネットワーク
代表

今日1日、素敵な場所で過ごし、ここにある場所の力と、そこに集まったみんなのエネルギーの掛け算が本当に重要だと感じました。まちづくり活動は「場所と人」との掛け算なので、今日はすごく良い時間を過ごせました。全体的な印象としては、コラボがたくさん生まれていたのがとても良かったです。運営事務局への要望としては、どこどこが繋がったのかを成果として見える形にしてみらえるとありがたいです。一方で、グループへのアドバイスとしては、企画を「伝える」と「伝わる」は違うので、参加者の目線に立ち、来てくれた理由やニーズを整理してほしい。さらに、自分たちが何をしたいかではなく、実現した時にどういふ社会・どんな町になっているのかという“絵”を描いて伝えてほしい。そのビジョンが共感や応援を生み、活動の大きな力になると思っています。



委員
たかみち まさし
高道 昌志
明星大学 建築学部
建築学科 准教授

皆さんの発表から、この1年間の成果とエネルギーがしっかりと伝わってきました。今年は特にコラボレーションが顕著だったと思います。ただ、コラボはただ組めばいいわけではなく、相手の強みや空間ストック、技術などをどう頼り合うかが大切で、そうした点を共有できる場として、この成果発表会はとても意味があると感じました。これから新しいつながりが生まれると嬉しいです。また、活動が最終的にどこを目指しているのかを常に点検することも重要です。イベントを重ねるだけで満足せず、原点と10年後、20年後の到達点を往復しながら考えることが大切だと思います。まちづくりの仲間として、共通の認識を持って一緒に進んでいければと思いました。



副会長
みとも なな
三友 奈々
日本大学 理工学部
土木工学科 助教

今日はいくつかのグループの方々からそれぞれの活動に対して「自分ごと」として捉えているとお話があったのが印象的でした。私自身は、公共空間の居場所づくりの研究をしておりますが、それぞれの地域のためという思いと同時に、自分自身の居場所が足りないという問題意識も持っております。皆さんも地域のためという大きな思いとともに、「自分にとって必要か・重要か」「自分が欲しいか」という気持ちをご自分も大事にしていきたいです。活動を続けていくには大変なことばかりかと思いますが、自分がしたいかどうか原動力として重要です。その思いを大切にしながら、これからも活動を続けていただけたら嬉しく思っております。



会長
ごと ちかこ
後藤 智香子
東京都市大学 環境学部
環境創生学科 准教授

本日は長丁場、本当にお疲れさまでした。どのグループからも有意義なご報告をいただき、心より感謝申し上げます。今年はこれまで以上にコラボレーションが生まれたことが大きな成果でした。活動のテーマや対象者、使うツールも多様で、それぞれが自分らしい方法で街を良くしようと取り組む姿は、まちサポを活かしてとても面白く感じました。だからこそ自然に連携が生まれ、互いの強みを活かした取り組みが広がったのだと思います。それができたのも、このまちサポ制度と仕組みがあったからだと思います。来年度以降も、まちサポというプラットフォームのような場所を一つの手段として上手に活用しながら、それぞれの現場で活動を続けていただければ嬉しく思います。

法人会員

建設業	株式会社楠山設計	不動産業	株式会社AZWAY
	株式会社久保工		NTT都市開発株式会社
	株式会社竹中工務店		東京建物株式会社
	(一社) 東京都建築士事務所協会 千代田支部		株式会社ニーズ・プラス
	株式会社ナカノフドー建設		プラットフォームサービス株式会社
製造業	日産緑化株式会社	サービス業	三菱地所株式会社
	株式会社イガラシ		安田不動産株式会社
	株式会社イサミヤ		株式会社アール免震
	瀬味証券印刷株式会社		株式会社i-tec24
	株式会社創朋		株式会社インフィニティエージェント
	東京スクリーン株式会社	その他	株式会社弘周舎
	東洋美術印刷株式会社		株式会社アレップス
	株式会社日精ピーアール		石塚株式会社
	ノーラエンジニアリング株式会社		株式会社グリーンエコエナジー・アセットマネジメント
	ハネクトーン早川株式会社		株式会社コンベンションリンクージ
	株式会社ムレコミュニケーションズ		株式会社TALO都市企画
	有限会社メカノトランスフォーマ		一般社団法人千代田区観光協会
	ヤマノ印刷株式会社		NPO都市住宅とまちづくり研究会
	LightBank株式会社		株式会社ネクセライズ
			株式会社バイオレンジャーズ
卸売・小売業	鈴木治作株式会社		ビヨンドネクストアカウンティング株式会社
	鈴新株式会社		株式会社フィレール
	株式会社トキワ		株式会社mitsuki
情報通信業	株式会社ユニフォームネット		株式会社メイクワン
	コンプライアンス・データラボ株式会社		株式会社リブリッジ
	ソホビービー株式会社		
金融業	株式会社メディアリンク		
	株式会社きらぼし銀行 神田中央支店		
	興産信用金庫		
保険業	西武信用金庫 神田支店		
	株式会社FEA		
	ぜんち共済株式会社		

個人会員

池 俊郎 伊澤 優 加藤 武夫 小林 誠
佐藤 直樹 瀬川 昌輝 堀部 剛正 村上 嘉陽
他5名

法人：56 個人：13 計69

※助成金の一部は賛助会員からの賛助金が活用されています。

千代田まちづくりサポート通信 No.45 発行 2026年7月

発行者 公益財団法人まちみらい千代田 協働まちづくり・総務グループ（まちづくりサポート運営事務局）
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21 ちよだプラットフォームスクウェア4階
URL <https://www.mm-chiyoda.or.jp> TEL 03-3233-7556 E-mail machisapo@mm-chiyoda.or.jp



まちサポ
特設サイト



この冊子は環境にやさしいFSC®森林認証紙を使用しています。